

2010年度の温室効果ガス排出量の推計(現状対策ケース、対策強化ケース) 暫定値

温室効果ガス別	基準年	→	現状対策ケース(2010年度)		⇒	対策強化ケース(2010年度)		⇒	大綱の目標	
	万t-CO2		万t-CO2	基準年 総排出量比		万t-CO2	基準年 総排出量比		万t-CO2	基準年 総排出量比
①エネルギー起源CO2	104,833	→	113,668	+7.1%	⇒	105,425	+0.5%	⇒	102,359	-2%
非エネルギー起源CO2、 CH4、N2O	13,888	→	12,728 ~ 13,414	-0.9% ~ -0.4%	⇒	12,151 ~ 12,838	-1.4% ~ -0.8%	⇒	13,269	-0.5%
②非エネCO2	7,394	→	7,560 ~ 7,560	+0.1% ~ +0.1%	⇒	7,112 ~ 7,112	-0.2% ~ -0.2%	⇒	/	
③CH4	2,474	→	1,777 ~ 2,071	-0.6% ~ -0.3%	⇒	1,760 ~ 2,054	-0.6% ~ -0.3%	⇒		
④N2O	4,019	→	3,390 ~ 3,783	-0.5% ~ -0.2%	⇒	3,278 ~ 3,671	-0.6% ~ -0.3%	⇒		
⑤HFC	2,023	→	精査中	精査中	⇒	精査中	精査中	⇒		
⑥PFC	1,259	→	精査中	精査中	⇒	精査中	精査中	⇒	7,448	+2%
⑦SF6	1,692	→	精査中	精査中	⇒	精査中	精査中	⇒		

○HFC、PFC、SF6の排出量については精査中。

○上記のほか、対策として吸収源対策、京都メカニズムの活用がある。

○中央環境審議会においては、中間のとりまとめ後も大綱の改定が行われるまでの残された間に、①～⑦の温室効果ガス排出量の更なる削減や吸収量の更なる確保を図るため、追加対策・施策の検討を進めることとしており、上記の対策強化ケースの数字は現時点での暫定値である。

2010年度のエネルギー起源CO2排出量の推計(現状対策ケース、対策強化ケース) 暫定値

部門別	基準年	→	現状対策ケース(2010年度)		⇒	対策強化ケース(2010年度)		大綱の目安としての目標 (基準年比)	
	万t-CO2		万t-CO2	基準年比		万t-CO2	基準年比	配分前	配分後
エネルギー起源CO2	104,833	→	113,668		⇒	105,425			
産業部門	47,608	→	44,674	-6.2%	⇒	41,715	-12.4%	-7%	-8.6%
運輸部門	21,721	→	26,020	+19.8%	⇒	25,448	+17.2%	+17%	+16%
家庭及び業務その他	27,300	→	35,618	+30.5%	⇒	31,659	+16.0%	-2%	
家庭部門	12,915	→	15,850	+22.7%	⇒	14,099	+9.2%		-11%
業務その他部門	14,385	→	19,769	+37.4%	⇒	17,560	+22.1%		-6%

○大綱の目安としての目標(配分後)は「革新的技術の開発、国民各界各層の地球温暖化防止活動」による削減を各々の部門に再整理した数値。

○「革新的技術の開発、国民各界各層の地球温暖化防止活動」の削減効果は、対策強化ケースの関連する部門の数値に溶け込んでいる。

○中央環境審議会においては、中間のとりまとめ後も大綱の改定が行われるまでの残された間に、①～⑦の温室効果ガス排出量の更なる削減や吸収量の更なる確保を図るため、追加対策・施策の検討を進めることとしており、上記の対策強化ケースの数字は現時点での暫定値である。